

目 次	
1 本の修理の基本姿勢	2
2 本の構造	2
3 製本（3種類のサンプル本作成）	4
サンプル本① <small>おりちょう</small> 折丁（冊子）が1つの角背上製本【チェーンステッチ綴じ】	5
サンプル本② <small>おりちょう</small> 折丁（冊子）が複数の角背上製本【ノート綴じ】	7
サンプル本③ <small>おりちょう</small> 折丁（冊子）が複数の角背上製本【テープ綴じ】	9
4 絵本の構造と修理方法	12
タイプA <small>おりちょう</small> 折丁（冊子）が1つの角背上製本【チェーンステッチ綴じ】	13
タイプB <small>おりちょう</small> 折丁（冊子）が複数の角背上製本【ノート綴じ】	14
5 他機関の本の修理に関するホームページ	16

1 本の修理の基本姿勢

<三原則>

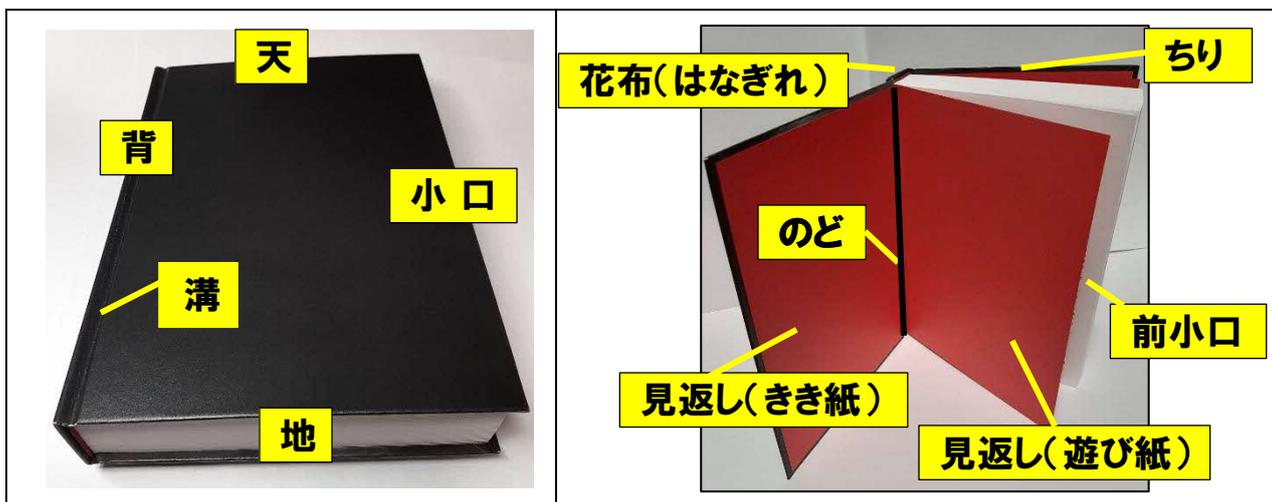
- 1 オリジナルの尊重…できるだけ元の本の形を維持し、元の材料を生かして修理する。
- 2 可逆性…必要な時はやり直しができる修理をする
- 3 安全な材料…追加する修理の材料は適材適所を心がける。

<その他>

- ・作業の前に本全体の破損状態をよく観察する。
- ・利用に耐えられる必要最低限の修理をする。
- ・紙材料は紙の縦目、横目を見極めて修理する。

2 本の構造

★本の各部名称

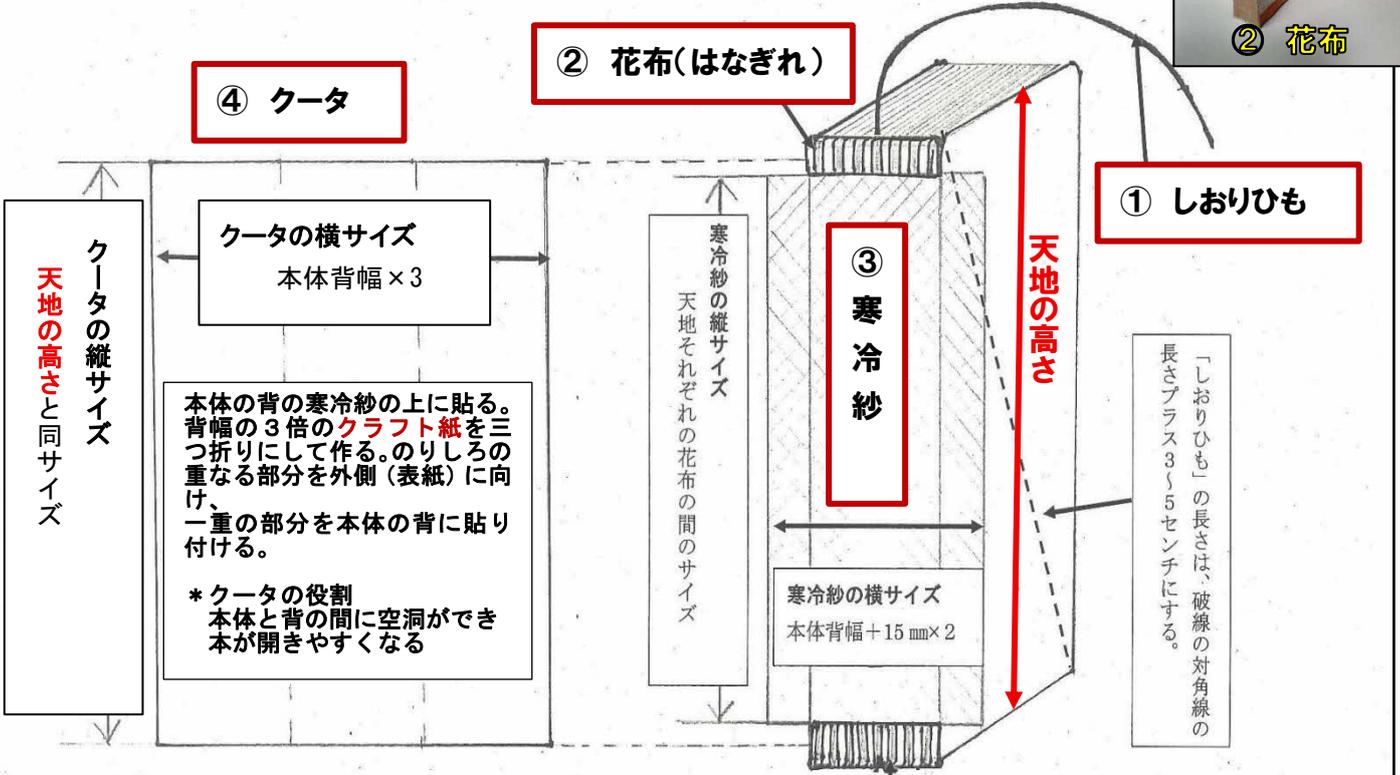
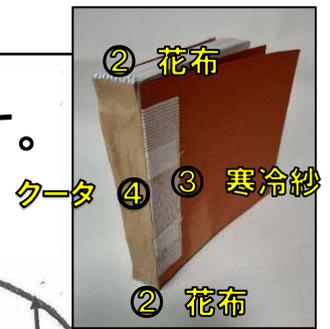


★本の構造

	上製本 (じょうせいほん)		並製本 (なみせいほん)
製本方法	できあがった本文と表紙を組み合わせる		本文を表紙でくるんでから裁断
本文の背	角背 (かくぜ)	丸背 (まるぜ)	角背 (かくぜ)
背の写真			
例	ハードカバーの小説など	ハードカバーの小説など	ソフトカバーの文庫本など

★背の構造

本体の背に①～④を取り付けて、表紙と結合します。



★背の種類

はがれた背表紙を木工用ボンドで直接、本体の背に貼り付けない。

本体の背には「クータ」用紙を貼り付けて、「ホローバック」の仕様にする。

背の種類

ホローバック

本文を開くと本文の背と背表紙の間に空間が出来る。このため、背は壊れにくく、本文も比較的広く開くことが可能。
現在主流の方式。



本体と背表紙の間に空洞ができています。

フレキシブルバック

本文を開くと背が曲がるため「のど」の奥まで開くことが出来る。ただし本文を開くたびに大きく曲がるので、長時間経つと背表紙に破損が生じる。



フレキシブルバック

タイトバック

本文を開いても背は動かない。そのため背は頑丈だが、のどまで開くことは困難であり、ムリに開こうとすると、背が割れてしまうという欠点がある。



タイトバック

3 製本（3種類のサンプル本作成）

本の構造を知り、図書の修理で利用する「綴じ」「本文と表紙との結合」などを【動画】で学びます。

★製本するサンプル本の種類

	サンプル本①	サンプル本②	サンプル本③
本の構造	折丁が1つの角背上製本	折丁が複数の角背上製本	折丁が複数の角背上製本
			
製本の種類	角背上製本	角背上製本	角背上製本
折丁	1つ	複数（4～8折り）	複数（8折り以上）
綴じ	チェーンステッチ綴じ	ノート綴じ	テープ綴じ
見返し	2枚の見返しを 本文と一緒に綴じている	本文の「のど」3mmに糊をぬり 半分に折った見返しを貼付	本文の「のど」3mmに糊をぬり 半分に折った見返しを貼付
背の構造			
しおりひも	×（*つけてもよい）	×（*つけてもよい）	○
花布	×	×（*つけてもよい）	○
寒冷紗	○	○	○
クータ	×	クラフト用紙を筒状にし 一重の方を背に貼る	クラフト用紙を筒状にし 一重の方を背に貼る
テキスト	5～6ページ	7～8ページ	9～11ページ

★サンプル本① 折丁が1つの角背上製本（チェーンステッチ綴じ）

<材料> *A5サイズの本文用紙の場合

材料は、タテ目の方向に注意して必要な大きさに裁断する



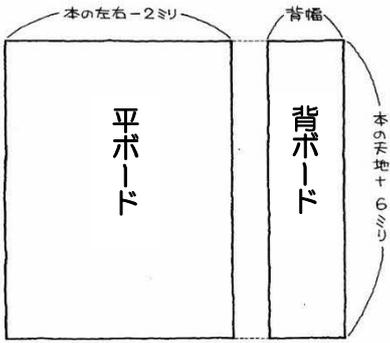
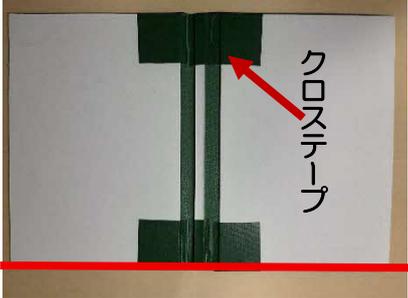
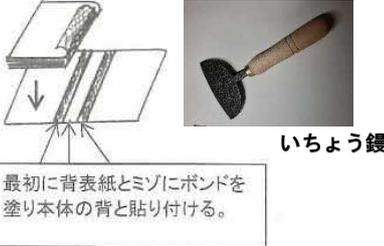
	材料	サイズ（必要数）
本文用紙	コピー用紙	A5〔縦15cm×横21cm〕（10枚）
見返し用紙	色画用紙 又は 厚口色付コピー用紙	縦15cm×横23cm（2枚）
表紙	ボード（厚さ2mm）	表紙 縦15.6cm×横10.2cm（2枚） 背表紙 縦15.6cm×横0.6cm（1枚）
	テープクロス又は包装紙・カレンダーなど	幅7.5cm×長さ18.5cm（1本）
寒冷紗		幅5cm×長さ14.8cm（1枚）
糸	20番手手縫い糸 （ポリエステル100%）	約65cm（天地のサイズの4倍）
ゲージ	画用紙	6cm×20cm くらい
のり	でんぶん糊 ポンド	

<道具>

カッティングボード・カッターナイフ・ハサミ・定規・鉛筆・ハケ・ヘラ・針・目打ち・のり台紙（広告など）・ワックスペーパー（またはクッキングシート）・いちょう鍬（こて）

<作業手順>

	作業	内容	
1	ゲージを作る	本文の背に開ける綴じ穴の位置を決めるためのゲージを作成	
2	本文用紙と見返し用紙の準備	二つ折りにした本文用紙の外側に二つ折りにした見返し用紙2枚を重ねる	
3	綴じ穴を開ける	ゲージを本文用紙内側に当てて、目打ちで本文用紙と見返し用紙の綴じ穴を開けていく	
4	寒冷紗の貼り付け	本文の背の天地両側に等間隔の余白を開けて、寒冷紗を見返し用紙の上に重ね、ポンドで仮止めする	
5	寒冷紗に綴じ穴を開ける	寒冷紗の背に綴じ穴を開ける	
6	本文を綴じる	チェーンステッチ綴じで本文を綴じる	
7	寒冷紗貼り付け 前小口カット	見返し用紙のきき紙に寒冷紗を貼り付ける 本文用紙の一番短いところに合わせ前小口をカットする	

8	表紙ボードのサイズの割り出し	<p>平ボード 縦 → 本紙縦サイズ + <u>6ミリ</u> (チリ 3mm×2 (上と下)) 横 → 本紙2つ折サイズ - <u>2ミリ</u> (溝があるので本紙より2mm小さく)</p> <p>背ボード 縦 → 本紙縦サイズ + <u>6ミリ</u> (チリ 3mm×2 (上と下)) 横 → 本体背幅 + <u>3ミリ</u> (ボードの厚さ 2mm×2 (表と裏) - 1mm)</p>	
9	クロステープで表紙ボードをつなぐ	<p>クロステープ 縦 → 表紙ボードの縦サイズ + <u>30ミリ</u> (折り返し 15ミリ×2) 幅 → <u>70ミリ</u></p> <p>クロステープの中心に「背ボード」置く</p> <p>まっすぐになるように、右図赤線部分に定規を当て、溝幅 9ミリあけて、「平ボード」を置く</p> <p>切り込みを入れクロステープを折り返し溝部分はヘラで押さえ貼り付ける</p>	
10	本文と表紙の結合①	<p>表紙の背表紙と溝にボンドを塗って、本体を重ね、背を「いちよう鍍」で固定する</p> <p>*いちよう鍍がない場合は、竹ひごを溝に当てて目玉クリップで固定する</p>	 <p>最初に背表紙とミゾにボンドを塗り本体の背と貼り付ける。</p>
11	本文と表紙の結合②	見返し用紙のきき紙に糊をつけて表紙と結合する	
12	プレス	<p>できあがった本の見返しのきき紙とあそび紙の間にワックスペーパー(またはクッキングシート)を挟んで、板でプレスする</p> <p>*いちよう鍍がない場合は、竹ひごを溝に当てて目玉クリップで固定してからプレスする</p>	

★サンプル本② 折丁が複数の角背上製本（ノート綴じ）

<材料> *A5サイズの本文用紙の場合

材料は、タテ目の方向に注意して必要な大きさに裁断する

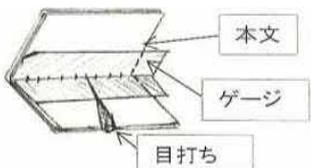


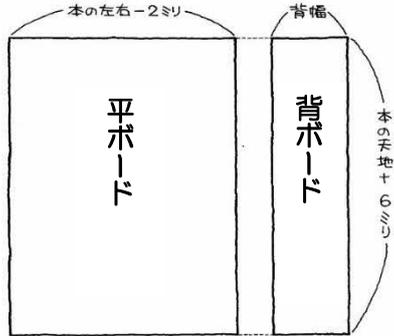
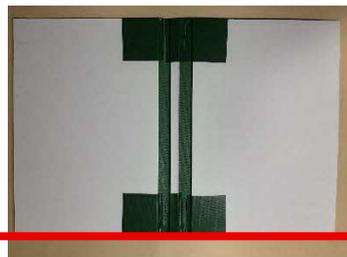
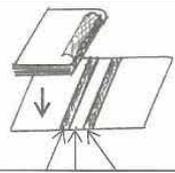
	材料	サイズ（必要数）
本文用紙	コピー用紙	A5〔縦 15cm×横 21cm〕（40 枚）
見返し用紙	色画用紙 又は 厚口色付きコピー用紙	縦 15cm×横 23cm（2 枚）
表紙	ボード（厚さ 2 mm）	表紙 縦 15.6cm×横 10.2cm（2 枚） 背表紙 縦 15.6cm×横 1.2cm（1 枚）
	テープクロス又は包装紙・カレンダーなど	幅 7.5cm×長さ 18.5cm（1 本）
寒冷紗		幅 5 cm×長さ 15cm（1 枚）
クータ	クラフト用紙 又は 封筒	幅 5 cm×長さ 15cm（1 枚）
糸	20 番手手縫い糸 （ポリエステル 100%）	
ゲージ	画用紙	6cm×20cm くらい
のり	でんぷん糊	

<道具>

カッティングボード・カッターナイフ・ハサミ・定規・鉛筆・ハケ・ヘラ・針・目打ち・のり台紙（広告など）・ワックスペーパー（または クッキングシート）・いちよう罎（こて）

<作業手順>

	作業	内容	
1	ゲージを作る	本文の背に開ける綴じ穴の位置を決めるためのゲージを作成	綴じ穴は、 左右 10 mm、その間は 20 mm 前後で綴じ穴を決める * 穴の数は偶数に
2	本文用紙の準備	本文用紙 5 枚を一折として 8 セットを作る * 本文用紙 40 枚の場合	
3	綴じ穴を開ける	ゲージを本文用紙に当てて、目打ちで綴じ穴を開けていく	
4	本文を綴じる	ノート綴じで本文を綴じる	
5	見返し用紙の貼り付け	綴じの終わった本文に見返し用紙を背から 3 ミリの糊しろで貼り付ける	
6	背固め	①背幅のサイズを紙テープなどで採寸 ②背に糊を塗って背固めをする	

7	寒冷紗の貼り付け	背固めの終わった背に寒冷紗を貼り付ける	幅:15 mm + 背幅 + 15 mm 長さ:天地の高さより 少し短め
8	クータの貼り付け	クラフト紙でクータを作り、貼る	幅:背幅の3倍 長さ:天地の高さ
9	表紙ボードの サイズの割り出し	<p><u>平ボード</u> 縦 → 本紙縦サイズ + <u>6ミリ</u> (チリ 3mm × 2 [上と下]) 横 → 本紙2つ折サイズ - <u>2ミリ</u> (溝があるので本紙より2mm小さく)</p> <p><u>背ボード</u> 縦 → 本紙縦サイズ + <u>6ミリ</u> (チリ 3mm × 2 [上と下]) 横 → 本体背幅 + <u>3ミリ</u> (ボードの厚さ 2mm × 2 [表と裏] - 1mm)</p>	
10	クロステープで 表紙ボードをつなぐ	<p><u>クロステープ</u> 縦 → 表紙ボードの縦サイズ + <u>30ミリ</u> (折り返し 15ミリ × 2) 幅 → 70ミリ</p> <p>クロステープの中心に「背ボード」置く まっすぐになるように、右図赤線部分に定規を当て、溝幅 10ミリあけて、「平ボード」を置く</p> <p>切り込みを入れクロステープを折り消し 溝部分はヘラで押さえ貼り付ける</p>	
11	本文と表紙の結合①	<p>表紙の背表紙と溝にボンドを塗って、いちよう鋺で 本体を固定する *いちよう鋺がない場合は、竹ひごを溝に当てて目 玉クリップで固定する</p>	 <p>最初に背表紙とミゾにボンドを 塗り本体の背と貼り付ける。</p>
12	本文と表紙の結合②	見返し用紙のきき紙に糊をつけて表紙と結合する	
13	プレス	<p>できあがった本の見返しのきき紙とあそび紙の間 にワックスペーパー (またはクッキングシート) を 挟んで、板でプレスする *いちよう鋺がない場合は、竹ひごを溝に当てて 目玉クリップで固定してからプレスする</p>	

★サンプル本③ 折丁が複数の角背上製本（テープ綴じ）

<材料> *A4サイズ用紙を縦1/3でカットした本文用紙の場合

材料は、タテ目の方向に注意して必要な大きさに裁断する



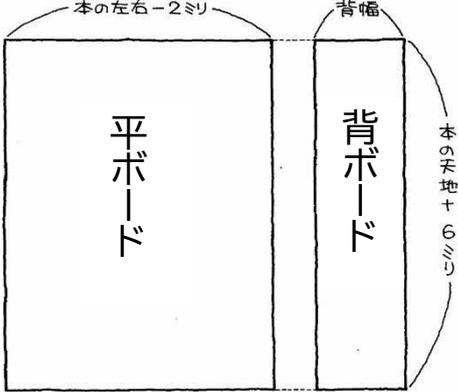
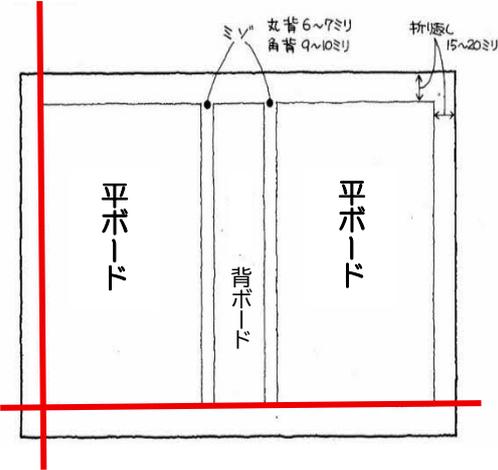
	材料	サイズ（必要数）
本文用紙	コピー用紙	縦 9.9cm (A4 長辺の 1/3) × 横 21cm (A4 短辺の長さ) (64 枚)
布テープ	幅 1 c m の布テープ	長さ 約 12 c m (2 本)
見返し用紙	色画用紙 又は 厚口色付きコピー用紙	縦 9.9cm (A4 長辺の 1/3) × 横 21cm (A4 短辺の長さ) (2 枚)
しおりひも		20cm
花布 (はなぎれ)		3cm (2 枚)
寒冷紗		幅 5cm × 長さ 10cm (1 枚)
クータ	クラフト用紙 又は 封筒	幅 5cm × 長さ 9.9cm (1 枚)
表紙	ボード (厚さ 2mm)	縦 10.5cm × 横 25cm (1 枚)
	クロス 又は 包装紙・カレンダーなど	縦 15cm × 横 30cm (1 枚)
糸	20 番手手縫い糸 (ポリエステル 100%)	
ゲージ	画用紙	10cm × 15cm くらい
のり	でんぷん糊	

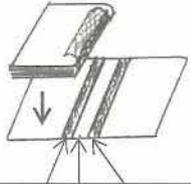
<道具>

カッティングボード・カッターナイフ・ハサミ・定規・鉛筆・ハケ・ヘラ・針・目打ち・のり台紙（広告など）・ワックスペーパー（または クッキングシート）・いちょう鍬（こて）

<作業手順>

	作業	内容
1	①ゲージを作る ②本紙折丁作成 ③綴じ穴を開ける	①本紙の天地のサイズとテープの本数にあわせて綴じ穴の位置を決めてゲージを作成 ②本紙用紙 8 枚を一折として折丁 8 セット作る *本文用紙 64 枚の場合 ③折丁にゲージを当てて綴じ穴を開ける
2	見返し用紙 サイズカット	見返し用紙を本紙と同サイズに 2 枚カットする（縦目になるように注意）

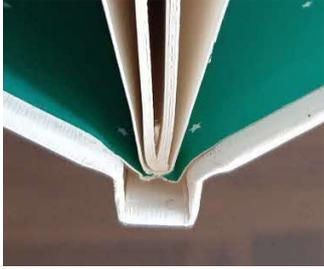
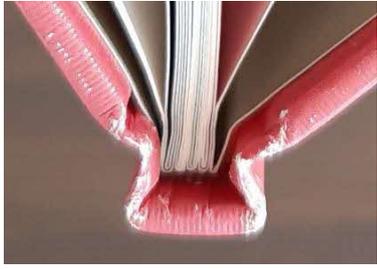
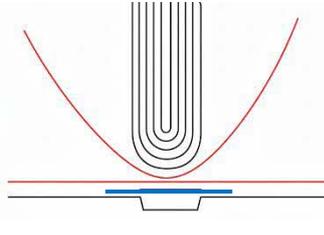
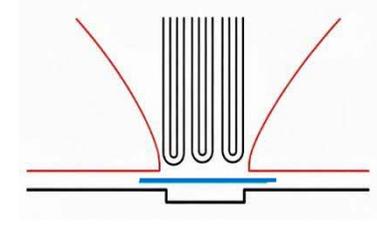
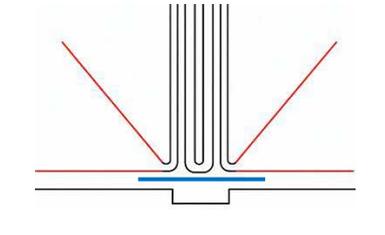
3	本紙を綴じる	<p>テープ綴じで本紙を綴じる 綿テープを針で縫わないように注意 テープをまたいで綴じていく 綴じ終了後、テープを両側から引っ張り緩みを取る</p>	
4	見返し用紙の貼り付け	<p>綴じの終わった本文に見返し用紙を背から3ミリの糊しろで貼り付ける</p>	
5	背固め	<p>①背幅のサイズを紙テープなどで採寸 ②背にボンドを塗り背固めをする テープの部分も糊付けする テープ両端の余分は15mmの長さを残してカットし、平らにして見返しきき紙に貼り付け</p>	
6	背の造作	<p>しおりひも、花布、寒冷紗、クータの順に貼り付け</p>	<p>大きさは p.3 「★背の構造」 参照</p>
7	表紙ボードのサイズの割出し	<p><u>平ボード</u> 縦 → 本紙縦サイズ + <u>6ミリ</u> (チリ3mm×2〔上と下〕) 横 → 本紙2つ折サイズ - <u>2ミリ</u> (溝があるので本紙より2mm小さく) <u>背ボード</u> 縦 → 本紙縦サイズ + <u>6ミリ</u> (チリ3mm×2〔上と下〕) 横 → 本体背幅 + <u>3ミリ</u> (ボードの厚さ2mm×2〔表と裏〕 - 1mm)</p>	
8	表紙クロス裏にボード貼り付け位置を記入	<p>クロス縦横2辺に15ミリ幅の折り返しライン (右図: 赤線) を記入。 溝幅9ミリを2本入れながら、平ボード2枚、背ボード1枚の配置場所を記入 (線引きは必ず色鉛筆を使用)</p>	

9	表紙クロス糊付け	<p>クロスの裏面に中央から外側に向けて、ムラなく糊を付ける。 (糊の濃さはドレッシング程度)</p>	
10	表紙クロスと表紙ボードを糊付け	<p>① 表紙クロス上に記入したボードの配置ラインを目安にしてボードを貼り付け。 ② 天地、左右の順に表紙クロス折り返し部分をボード裏側に貼り付け。</p>	
11	本体と表紙を結合	<p>表紙の背表紙と溝にボンドを塗って、いちよう鋺で本体を固定する</p> <p>見返し用紙のきき紙に糊をつけて表紙と結合する</p>	 <p>最初に背表紙とミゾにボンドを塗り本体の背と貼り付ける。</p>
12	プレス	<p>できあがった本の見返しのきき紙とあそび紙の間にワックスペーパーを挟んで、板でプレスする</p> <p>*いちよう鋺がない場合は、竹ひごを溝に当てて目玉クリップで固定してからプレスする</p>	

4 絵本の構造と修理方法

絵本の構造の違いを知り、タイプ別に「修理方法」を【動画】で学びます。

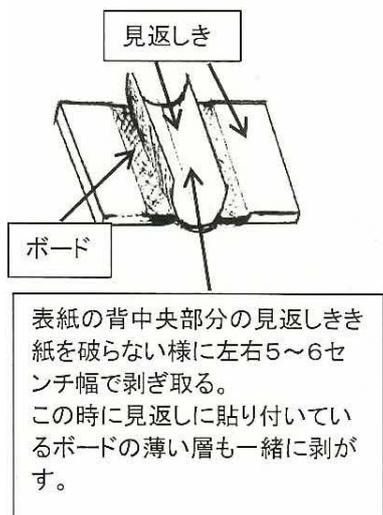
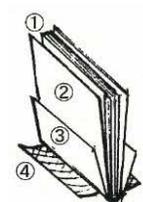
★絵本の構造と修理方法

		タイプ A (サンプル本①)	タイプ B (サンプル本②)	タイプ C (サンプル本①+②)
絵本の構造	上から見た写真			
	上から見た図 赤線：見返し 青線：寒冷紗			
	製本の種類	角背上製本	角背上製本	角背上製本
	折丁	1つ	複数	複数（見返し部分を含む）
	見返し	2枚の見返しを本文と一緒に綴じ、見返しのきき紙を表紙に貼付	二つ折りにした見返しを本文の巻頭と巻末の「のど」に貼付	見返しと本文と一緒に綴じ見返しのきき紙を表紙に貼付
修理手順	本文と表紙を切り離す	見返しのきき紙を背より左右2～3cmで切り込みを入れ、はがす	本文ののど部分に接着している見返しをはがす	見返しのきき紙を背より左右2～3cmで切り込みを入れ、はがす
	糸綴じ	チェーンステッチ	ノート綴じ	ノート綴じ
	背固め	×	○	○
	和紙のハネ	×	○	×
	寒冷紗	本文と一緒に綴じる	綴じて羽を付けた後貼る	綴じた後に貼る
	クータ	×	○	○
	表紙との結合	背と溝にでんぷんのり（原液）を塗り結合する	背と溝にでんぷんのり（原液）を塗り結合する	背と溝にでんぷんのり（原液）を塗り結合する
	見返しを貼る	薄いのりで貼る	薄いのりで貼る	薄いのりで貼る
テキスト	13 ページ	14～15 ページ		

★タイプA (サンプル本①) 折丁が1つの角背上製本 (チェーンステッチ綴じ)

<材料> 薄口和紙 (破れ補修) 厚口和紙 (のどの破れ) でんぷん糊 糸 (20番手手縫い糸 ポリエステル100%) 寒冷紗 ワックスペーパー (クッキングシート)

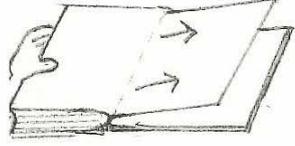
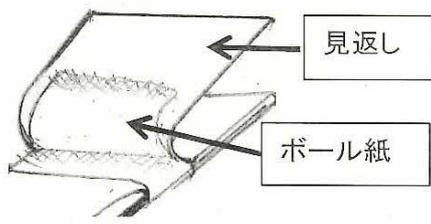
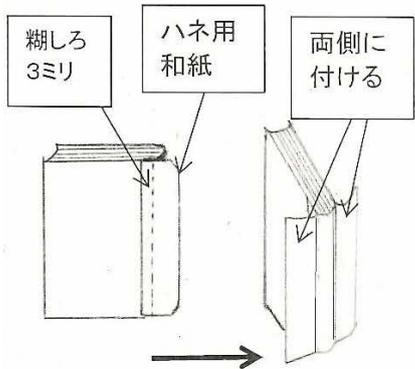
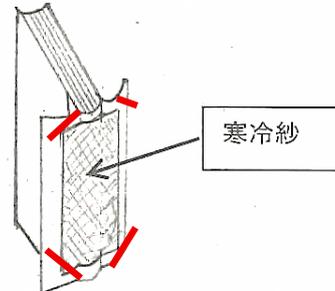
<道具> 鉛筆 定規 はさみ カッター ヘラ 目打ち のりハケ 針 竹ひご 目玉クリップ

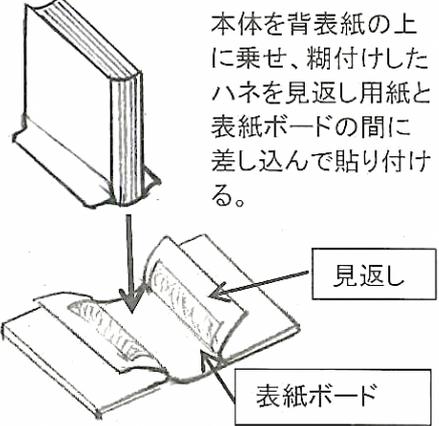
作業	内容	
1	本文用紙にページ数の有無を確認し、ない場合は鉛筆で薄く記入する	 <p>見返しき</p> <p>ボード</p> <p>表紙の背中央部分の見返しき紙を破らない様に左右5~6センチ幅で剥ぎ取る。この時に見返しに貼り付いているボードの薄い層も一緒に剥がす。</p>
2	折丁中央の糸綴じの糸をカットして糸を取り除く	
3	本文用紙の損傷を確認し、必要な場合は和紙などで修理する	
4	見返し用紙のきき紙を表紙ボードから剥がす (一部を剥がすか、全面を剥がすか、判断が必要)	
5	綴じ穴の位置を決め、鉛筆で印を付ける (既存の穴を使うか、新しい穴を開けるか判断が必要)	目安として、綴じ穴と綴じ穴の間は2cm前後
6	<p>既存の見返し用紙の状態が良いものはそのまま使用し、使用不可の場合は新たに綴じる見返し用紙2枚を準備する (縦サイズは本文用紙と同サイズ、横幅は本文サイズより長くしておく)</p> <p>元の見返しが色無地、白色無地の場合は同色の新規見返し用紙が使用できる</p>	見返し用紙 (紙の目が縦目になるようにカットする)
7	<p>本文用紙、見返し用紙、寒冷紗を一折中綴じ (チェーンステッチ) で綴じる</p> <p>寒冷紗：幅 5cm 縦 本文用紙より 10ミリ~20ミリ短く</p>	 <p>① 本文用紙②に見返し遊び紙 ②、剥ぎ取った見返しきき紙 ③、寒冷紗④を重ねてチェーンステッチで綴じる。</p>
8	表紙の背表紙と溝にボンド塗って、本文の背を貼り、溝に竹ひごを乗せて押さえ、クリップで挟む 表紙と本文用紙の向きを必ず確認して逆さまにならぬように注意	
9	見返し用紙のきき紙に糊をつけて表紙と結合する	
10	プレス	

★タイプB（サンプル本②） 折丁が複数の角背上製本（ノート綴じ）

<材料> 薄口和紙（破れ補修） 厚口和紙（のどの破れ・ハネ） でんぶん糊 糸（20番手手縫い糸 ポリエステル100%） 寒冷紗 クラフト紙 ワックスペーパー（クッキングシート）

<道具> 鉛筆 定規 はさみ カッター ヘラ 目打ち のりハケ 針 竹ひご 目玉クリップ

作業	内容		
1	本文用紙にページ数の有無を確認し、ない場合は鉛筆で薄く記入する	 <p>本体を片方の手で押さえながら、もう片方の手で見返しをゆっくり引っ張りながら剥がす。</p>  <p>既存の見返し用紙を使用する場合は表紙ボール紙の一番上の層を見返しに付けた状態で剥がす。</p>	
2	見返し用紙のノド部分を本体から剥がして、中の寒冷紗を切断して、本体を取り出す		
3	本文の糸綴じの糸をカットして糸を取り除く		
4	本文用紙の損傷を確認し、必要な場合は和紙などで修理する		
5	綴じ穴の位置を決め、鉛筆で印を付ける （既存の穴を使うか、新しい穴を開けるか判断が必要 綴じ穴の数は偶数）	<p>目安として、綴じ穴と綴じ穴の間は2cm前後</p> 	
6	①見返し用紙の状態を見て、新たに貼り付ける場合は見返し用紙2枚を準備する ②既存の見返し用紙を使用する場合はノドから幅30mm程度を表紙ボードから剥がしておく		
7	本文用紙をノート綴じで綴じる		
8	背固め	本文の背にボンドを塗って背固めをする	
9	ハネ	ハネ用に厚口和紙を本文のノドに糊しろ3mmで貼り付ける ハネ：幅3cm 縦 天地の高さ	
10	寒冷紗	背に寒冷紗を貼り付け、ハネ用紙の羽部分にも寒冷紗を貼り付ける 寒冷紗：幅5cm 縦 天地の高さ 見返しからはみ出ないように、四つ角は切り落としておく （赤線）	

11	ク ー タ	<p>クラフト紙を本体(寒冷紗の上)に貼り付ける</p> <p>*背幅の狭い絵本には1枚クータを貼り付ける</p> <p>クラフト紙：幅 5mm+背幅+5mm 縦 天地の高さ</p> <p>背と重なる部分は糊付けせずに見返し部分に重なる部分のみに糊付けして貼り付ける</p>	
12	表 紙 と 結 合	<p>①表紙の背表紙と溝にボンドを塗る</p> <p>②本体のハネ部分に糊を塗り、見返し用紙と表紙ボードの間に差し込んで貼る付ける</p> <p>表紙と本文用紙の向きを必ず確認して逆さまにならないように注意</p>	 <p>本体を背表紙の上に乗せ、糊付けしたハネを見返し用紙と表紙ボードの間に差し込んで貼り付ける。</p>
13	プ レ ス	<p>①出来上がった絵本の2枚の見返し用紙の間にワックスペーパーを挟んで、溝には竹ひごを乗せてクリップで挟み、板でプレスする</p> <p>②乾燥後、本体のノドに貼った3mm幅の和紙に糊付けし、見返しあそび紙を貼り付けて、和紙を隠す。ワックスペーパーをはさみ乾かす</p>	

5 他機関の本の修理に関するホームページ

「資料保存委員会」（日本図書館協会オフィシャルサイト）

<https://www.jla.or.jp/committees/hozon/video/>

「資料の保存」（国立国会図書館オフィシャルサイト）

<https://www.ndl.go.jp/preservation>

「資料保存のページ」（東京都立図書館オフィシャルサイト）

https://www.library.metro.tokyo.lg.jp/guide/about_us/collection_conservation/conservation/

【リンク・著作権・免責事項について】

<https://www.city.miki.lg.jp/site/userguide/8514.html>